

日本ダート トライアルの誕生



ニッサンラリーサービス (NRS) 代表取締役 高崎正博氏の証言

NRS とダート・タイムTRIAL

日本に於けるダート・タイムトライアル (ダートラ) の歴史は、JRSCC の塩沢三子夫によって始まった。

'71年当時日本のモータースポーツは、レース/ラリー/ジムカーナの他に箱根ターンパイク・ヒルクライム (かの高橋国光らが出場し、TV 放映もした) や鞍掛山のヒルクライムがあった。

1971年、J.R.S.C.C 塩沢三子夫は、当時 多摩の丘陵地に使える土地があるが・・・と相談しに横浜にあったモータースポーツクラブ、S.S.S.A (シーサイド、スポーツ、アソシエーション) の関係で知り合いの当時 横浜石川町にあった GROUP-11 本多一雄の事務局に、J.R.S.C.C 塩沢三子夫は相談に訪れた。

GROUP-11 の歩み

既にイレブンメンバー (GROUP-11) で、事務所に屯していた高崎正博と永山政寛らは、当時のラリーの一部は未だスポーツ性が低く、速さで優劣がつきにくい競技内容に不満を持っており、「ラリーの SS だけで勝敗の付く競技」ダートでタイムトライアルをしたら盛んになるのでは? と提案して、

1972年、日本のダートラの歴史は J.R.S.C.C 塩沢三子夫のクラブの主催で始まった。

日本のモータースポーツがまだまだ発展途上にあつた'70年代初頭、弊社高崎正博は、ナビゲーター 原田康夫/山田真彦らと、自らのラリーチーム『PAIR OAL RALLY TEAM』を結成しラリーに参戦、ヨコハマに P.O.R.T 在りと多少知られる存在になっていた。

おりしも 当時 日本のトップラリースト 11 人が集まって結成されたラリーチーム GROUP-11 が、関東ラリークラブ連合を発足させ、その記念行事としてラリーを開催したおり、高崎はそれまでの勤めを退職しその事務局を務めた。それがきっかけで生活はラリー一色に染まったが、その後の生計を立てる手段は未だ決っていなかった。当時 GROUP-11 は、その実績から各メーカー関係者との深いつながりがあり、'71年に富士重工から新宿のスポーツコーナーと日産サニー神奈川からスポーツコーナーの求人があり、ニッサン車に特別なこだわりを持っていた高崎は“サニースポーツコーナー”相談員を選択した。

ラリー界も発展途上で東京/神奈川エリアでは毎週ラリーが開催され、参加も平均 40~50 台で、同世代の若手(当時)では、永山政寛、金子繁夫、綾部美津雄らが巣立っていった。しかし、モータースポーツが発展すると〇〇族といった輩が出没し、車両事故が多発するに至り'74年“サニースポーツコーナー”廃止に追い込まれた。既にユーザーへの日産純正スポーツキットの販売のみならず、クルマのチューニングや 業者販売業務も展開しており、「ユーザーに迷惑をかけずに廃業」が前提条件で、最善の策として高崎正博が個人で引き継ぐことになった。

「自分の作った、ニッサン車にダンロップタイヤを履いて、チャンピオンになる」を合言葉に、仕事以外、走りに出かけない日はクルマを作る、クルマを作らない日は走りに行く日々を送る基地であった自宅ガレージ、そこが NRS のスタート地点となった。

幸運にも「B110 サニーによる最強のラリー車作り」過程で修得した A 型及び L 型エンジンのチューンナップ技術（今や定番となったアルゴン溶接による燃焼室形状変更は元祖）や、“サニースポーツコーナー”時代に商品化に成功した、『ジュラルミン・アンダーガード』『ストラットタワーバー』『マッドフラップ』の販売もあり、まずまずの出だしであった。チューニング業もダートラ車、国内ラリー車、著名ラリーストの海外ラリー仕様車を手がけることなど、日曜祭日昼夜のない状態が続いた。

こうして

第 1 回 全日本ダートトライアル大会 ジュピターレーシング&スポーツカークラブ（JRSCC）主催 多摩テック

日本で初めてダートトライアルがスタートした歴史的瞬間であった。

参加者は高崎正博と永山政寛、この 2 人は当然のこと、当時の若手ドライバー、綾部美津雄、金子繁夫、大庭誠介、加勢裕二、松波登、田嶋伸博（出場時期に 1~2 年の差はある）など出場する中で、タイヤをレーシングタイヤからウェットパターンからスポーツラジアルタイヤ迄（レギュレーションでラリータイヤの使用禁止）を使い分け、高崎正博の勝率は 50%以上であった。

また、これまで千葉県湯本敬 P510 ブルーバードのエンジン、栃木県亀山晃 B310 サニーのサスペンション、富山県千田久雄 S10 シルビアなど多くのエンジン等を NRS でチューンナップしており、特に'82 年、鈴鹿で開催された全日本オールスター・ダートトライアルで、NRS カラーのシルビアで出場した NRS 千田久雄が見事総合 1 位に輝いた。

あの時 1971年、J.R.S.C.C 塩沢三子夫は、横浜にあったモータースポーツクラブ、S.S.S.A また当時 横浜石川町にあった GROUP-11 本多一雄の事務局に J.R.S.C.C 塩沢三子夫が多摩の丘陵地に使える土地があるが・・・と 相談しに訪れなければ、日本のダートトライアルが出来ていないだろう 歴史的改革は並大抵ではない 日本のモータースポーツ発展のため君臨し続けた J.R.S.C.C 塩沢三子夫氏には 頭が下がるばかりだ。



'72 年 JRSCC ダートタイム



'82 年日本オールスター、ダートラ総合 1 位の千田シルビア



'83 年 B-11 サニーでの全日本参戦



'85 年 N-12 パルサーで参戦



'86 モントレーでのギャラリーサービス